

公孫樹

東京都立
豊多摩高等学校
令和5年3月
第60号
東京都杉並区
成田西2-6-18
TEL 03(3393)1331

「日常的なコミュニケーションを」

校長 板倉 和則

私が豊多摩に着任して丸二年が経とうとしています。初めて皆さんに言葉をかけたとき、校長室はいつでもドアを開けておきますと公約しました。不在時や先生方・来客との面談時以外は少なくともどちらか一方のドアは開放しています。夏は暑く、冬は寒いという欠点はありますが、おかげさまで換気だけは十分なようです。豊多摩の学友たちは自立心旺盛なためか、校長という距離感、遠い存在(?)のためか、校長室の場所が悪いのか、あまり校長室を訪ねてくれる人がいません。しかしいざ訪ねてくるときには、大きくて重い話を携えてきます。こちらが全く構えていない状況なので、時間がかかって、なかなか相互理解が進まないことがあります。

今年も年度末の学校評価アンケートの集計がなされました。みなさん、大きな不満や要望を抱えていることもわかりました。一部に誤解があったり、学校だけではどうしようもないことだったり……文字化されることで少数の意見があたかも多数の意見であると認識され、読み手

に重圧感を与えることもあります。そういったお一人お一人の意見と向かい合うために、本当は顔を合わせて話をしたいのです。それが最善の方法だと私は思っています。

沈黙は危険です。相手に何も伝わるものがないからです。そして、不満を溜めることに繋がるからです。不満は小さなうちに解決させることがストレスを溜め込まない秘訣だと思います。コミュニケーションとは、情報や感情を伝えることです。普段から距離を縮めて、何気ない言葉かけや自然体のやり取りを行い、事実や思いを共有することがお互いの理解を促すと考えています。

ちよっと時間があったら、勉強に疲れたら、校長室を訪ねてみませんか。決して丸め込むようなことはしませんので、どうぞお気軽に。

Touch the Sky! TOYOTAMA!



「バルトブルーの思い出」

副校長 昆野 弘幸

昨年四月に豊多摩高校に着任して以来、広大な敷地の中で、整然と並ぶ銀杏などの大木、伝統を秘めた校舎の佇まい、様々な方々が手入れをして維持してくださっている色鮮やかな草花を目にして、この学校の環境のよさを実感しています。ある日、本校のグラウンドから空を見上げたら、澄んだ青空が広がっていました。都内区部でもきれいな青空が見られるんだと気付きました。

さて、私には一生のうちに見ておきたいと思っている光景がいくつかあります。そのひとつが世界最高峰のエベレスト。それでもできれば間近で見てみたいと。小型遊覧飛行機でその山に近づくことができるのと知り、今から九年ほど前、タイを経由してネパールへ行きました。同国には日程上三日間の滞在しかできず、遊覧飛行のチャンスは一回のみ。この飛行機は少しでも気象条件が悪いと運航されないため、何とか飛んでほしいと祈るような気持ちでした。フライト当日、カトマンズ市内は晴天。心踊らせながら早朝に宿から空港へ向かい、ロビーで搭乗時刻を待ちました。ところが、搭乗案内板には「Delayed.(遅延)」の表示が。多少遅れることはあるだろうとしばらく待っていたのですが、遅延時間は延びるばかり。結局、昼近くまで表示は変わりませんでした。午後にはタイへ戻らなければならなかったため、私は断腸の思いで搭乗を諦めました。カトマンズ市内は晴天でも、ヒマラヤの山岳地帯は悪天候だったのかもしれない。近くで見ることがかなわなかったエベレス



ト。でもタイからネパールへ向かう国際線の機内からその遠景を眺めることはできませんでした。また、現地で出会った遠くヒマラヤ山脈を覆う息を呑むようなコバルトブルーの空の色は一生忘れることはないでしょう。

何もヒマラヤでなくても、身近な場面にはっとする光景は存在すると思っています。目立たないところで可憐に咲く花を見つけたとき、私は小さな喜びを覚えます。校舎に向かう銀杏並木を歩きながら、四季の移ろいを感じることも楽しみとなっています。

「学力を上げるコツ」

進路図書部 上野 隆彦

まず、学習の目的をはっきりさせましょう。当面の目標として「志望校合格」はけっこうですが、それは何のためですか。目的をつきつめていけば、何のために生きるのかという究極の難問に突き当たります。目的を見失った場合は、自分のためというより「世の中をよくするために自分に何ができるか」という利他的な視点を持つと、新しいものが見えてくるかもしれません。

次に、学習に何らかの楽しさを見出すとよいです。「嫌いだけど得意」ということは起きません（「嫌い」と思った時点で負け）。「好き」と思えない場合、少なくとも否定的な感情を持たないようにして、何も考えずに勉強を続けてください。ある程度理解が進み、できるようになってくると、

自然と楽しくなり始めます。楽しめれば力も伸びます。

最後に、礼を尽くすことも実は学力向上には不可欠な要素だと思っています。「礼」は相手を大切にすることを意思表示であり、相手から学ぶ姿勢を自らにいましめるためでもあります。そんな謙虚さを持つ人の伸び方は飛躍的であると強く感じます。生活のすべてを学業に費やせる皆さんは、なんと恵まれていることでしょう。教育の機会を持ってない世界中の同世代の人々の夢まで一緒に抱くつもりで学び、それを活用し、幸せになってください。

「トイレの改修について」

経営企画室長 石田 由利子

本校では、教育環境の改善のため、令和四年度から令和六年度までの三か年で、全てのトイレの改修を計画しています。

令和四年度はB棟（放送室前を除く。）のトイレの改修工事を行い、完了しました。令和五年度はA棟（二・三学年の教室棟）、体育館棟及び部室棟、令和六年度はB棟放送室前、C棟（一学年の教室棟）及びプール棟のトイレの改修工事を行う計画となっています。

工期は、各年度とも夏季休業期間中から一月中旬旬までで、大きな音が発生する作業は夏季休業期間中に集中して行うこととしています。

改修後、便器は全て洋式となります。また、手洗いは自動水栓、照明と換気扇は人感センサー付きとなるなど、衛生面に配慮した仕様になっています。

ます。施工中は大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

〈編集後記〉 季節外れの「銀杏」の話

豊多摩高校の秋の銀杏並木は圧巻です。

「上も金下も黄金の並木道茜の空に銀杏舞うなり」
 〈七二期生M・A君 二〇一八年中央大会〉
 文芸部門秋の大会で入賞したこの短歌を読んだ時、これこそ豊多摩の風景だと納得。ところがその後、並木道を歩きながら気がついたのです。銀杏の実が最初に落ちる木は毎年決まっている、葉が色づき、落ちる時期は木ごとにズレがある。――木々と落ち葉がすべて金色というのは、イメージの表現なのだと。

嵐が過ぎた朝、どきどきと実が落ちていく木とそうでない木があります。一年生全員が一人百五十個（！）の実を集めて（あっという間に近隣の方が持って行って下さって）も、拾いきれないほどの実がまだまだ落ちるとは――。葉が燃えにくいこと。堆肥化にたくさんんの工程があること。そして「公孫樹」が「銀杏」の別表記であること。どれもこれも豊多摩で銀杏とともに過ごさなければ知らなかったことです。

「公孫樹」は、「公（＝祖父）が植えても、実がなるのは「孫」の代であることが由来とか。春になり、孫の代とは言わないまでも、卒業生たちのたくさん（きつと拾いきれない……）「実」の話を聞くにつけ、種をとき栄養を蓄えて育っていく「公孫樹」は豊多摩高校のシンボルなのだと思います。

ゆっくりでいいんだよ。育て！ 豊多摩生。（K・T）